します。

「元旦の大計」

の達成に邁進なさいますよう切にお祈り

とする工場、加工所などの 業分類による製造業を主業 事業所および二つ以上の事

この新

ます。対象は、日本標準産

Z

善

区

名

交

換

숲

期 地

H 刺

月 五 善

H

+

時

Ξ + Э

0

小

学

校 4 前

講

明

枝

秀

門 平 開 之 新

年

0

#### 明けましておめでと ò



で

この元旦は、

あります。

こやかくの批判の声もあり前期議会におきましては

は誠に力強く、頼もしく感ことは、叢長と致しまして

頼もしく感長

の改選期があり、

た意気込みが溢れています

ならないと思います。

新進気鋭といっ

を立てる日でもあるわけで 計画を立つべき元旦でもあ

新議会発足の計 一カ年の

均年齢も若く、

間もないことでありますの年でありますが、誕生して

ましては、初めて迎える新 成されました町議会にとり 造んでお祝い申し上げます
希望に満ちた新春を迎え

昨年十月の改選により構

また、本町の 見つつありまして、 ありましたため、 あります。

政を辿りつつありますことは皆様とともに慶びと存ずるので黒字で結ぶことが出來、本年度もまた堅実にゆとりある町財 昨年末おしらせしましたように、町財政は、前年度の決算を 

十二年十二月三十一日現在

工業統計調査並びに中

す。富山県の場合はおよそ 業所を経営する企業の本社

または本店である事業所で

ξ

六〇〇余の事業所につ

一は、日本標準分類による製 みた中小企業の特質をつか かにし、業種別、規模別に

もうとするものです。対象

ことが本調査の目的達成の

ままを調査表に記入される ら、申告者は進んでありの

夫

作 長 作 雄 郞

P/

ため、

是非必要なこと

通商産業省では、昭和三

の調査実施に 工業統計

5

V

7

.

中小企業

調査は、わが国中小企業の また、中小企業総合基本いて調査します。

部の両面から総合的に明ら 実態を企業経営の内部と外

工業統計調査は、全国の

元

旦

名

刺

だ め

年 0

始

廻

IJ 交

は 換

止 会

ま け

L て

ょ

ò

心め、町民の生計にゆとりが生じ、生活文化の躍産業の根幹である米作は、三年連続の大豊作で には「星暦一九××年」とい 内に産業、文化の伸張を 統計をつくるために行われ 実態を明らかにする重要な 資産の投資額等についてく から、わが国の経済活動の わしく調べ、製造工業の面 原材料の使用額、有形固定 製造業について従業者数、 することになりました。 小企業総合基本調査を実施

わが国は、今や外に国交を回復し、内に産業、文化の進を見つつありますことは喜びとせねばなりません。 つているように、 ます。某新聞 の持ち前を発揮しようという生成発展の氣分がみなぎつてい (戦のしこりともいうべき国際劣等感から脱却し、民族本來のつつありまして、昨年秋、国連理事国となりましてより、 代の始めに当り、 「USO放送」 人工衛星時代が到來致しました。 町民各位には大いに自重自愛なざいまし Ŀ げます。

田丁

御 入善町長 あ V 米 3 沢

和三十三年の年頭に当り、 謹んでお祝 元 健

発行所 入 善 町 役 場 集 責任者 中田憲政 印刷所池原印刷所 定価1部5円

t 0 五日日 四日 六日 仝 日 日日 灭 (月) (#)

永金 金月木

学校給食週間 大寒の入り やぶ入り (三十日まで)

町県民税及び国民健康 保険税納期限

(金)

三日

消防出初式の無知が出初式の 名刺交換会 初詣 成人の日 七くさ 年賀郵便特別取扱終る お年玉年賀はがき抽籤 成人式

日

分

産業大臣の指定で約一四万万の企業のうちから、通商

造業に属する。

全国約四〇

の企業を抽出選定いたしま

す。富山県の揚合はおよそ

料として、また中小企業対計は、通商産業行政上の資この調査で作製された統 期待されています。 として大いに役立つものと策をたてるための基礎資料

統計法に

目的に使用したり、その他 ことは絶対にありませんか の不利益をもたらすような に利害関係を生ずるような われるものです。 の任命する調査員により行 よる指定統計として、 九○○の事業所が調査され 調査員を徴税等直接申告者 なお、これは、 従って、

> 助 BJ

り、選挙の、四月に町 松 田 氏

# 頭

年

町議会議長 0 松 辭

栄

ましたが、町村合併による 田

期議会の行き方を検討して 会人であるわれわれば、前 気制を である いんかれば がません の 現議 その是を採り、その非を改 めて行かねばならないと思 ては多大の業績を残したと 新町発足の当初の議会とし います。幸い現議員は、 新人も多い 平 じられるのであります。 港新設を初め、 極めて好識であり、

| 腐朽校舎の改築や懸案の漁 すが、町財政再建の歩みは 新設、国道八号線の早期改 政に余祐の生じた場合は、 業はなしにくいのでありま にありますこととて新規事 修等の問題に触れなければ 町財政は、目下再建途上 西入善駅の 今後財

善処したいと思います。は、慎重適正な行動を取りして、これらに対しまして 上げる次第であります り御挨拶に兼ねお願い申し 会に対し格別の御支援をな 対処すべき難問題もありま し下さいますよう年頭に当 何卒町民各位には、現職

うし、黒四問題の新事態に もあることがあるでしよ 結果によっては政策の転換

全副議長 소 仝 仝 소 소 소 소 소 議会議員 岩 Ŀ 松 \* 岩 杉 伊 柏 小 佐 松 沢 場 原 田 林 原 堀 藤 本 島 原 文次郎 栄 政 順 Ξ 吉 光 市 正 正 磯 雄 蔵 平 郎 郞 照 郞 虎 Ξ 吉

青 上木 原 1 善 X 十三区 柴 柳 + 大 原 区 X 長 異 高 上竹 竹内弥三右 南 Ш 原 内 保 動 米次 政 皎 音 吉三門 松

長事務取扱) 税務課長 財政課長 厚生課長 産業課長 建設課長 競会競長 保険衛生課長 入 役 長 役 # 伊 杉 竹 清 米 本 旻 金 上 松 島 東 原 内 田 沢 沢 田 田 田 崎 礼次郎 啓太郎 Œ 栄 清 元 兼 秀 清 栄 清 = 治 健 治 松 雄 作 松 소 소 소 소 소 仝 소 仝 仝 仝 소 教育委員 소 4 教育委員 教育委員長 嶋 笹 柚 稲 細 高 石 大 森 吉 四 谷 広 中 售. 淹 若島助右エ 田 沢 島 田 田 JI 田 本 野 Ш 田 H 原 木 村 元 清 久 Ξ 正 竹 春 睦 栄 清 菊 雪 成 久 唐

摊 繁

松

正 四 和 Ξ + = 东 礼 10

智

島

翌四月号の

「編集室か

なった。

廃止をすることも一つの方

を進めるならば、連絡所の

このような見地から考え

法であろうし、

職員数につ

然るに町財政は窮乏をつ

えよう

田丁

成においては、極力経費のの早期再建を期さなければ にあるので何はおいてもこげ、目下町財政再建の途上

の増大を計らればならな

約をなすとともに、収入

脸

抱

厚生委員長

堀吉

# 總務委員長 新 ·····-各委員長はかく語る·····

## 上島 Œ 考えられる問題である。 年制の制定なども連関して もしも連絡所を廃止する

外に良方策を見出して交渉

最近伝えられる流域変更

新町育成の基礎的な仕事に 町村合併当初の議会は、 ったとするならば、 今期 氏 ばならない。 ならば、早急に有線放送施

すべき使命をもっていると **議会は諸政の充実発展をな** ないのではなかろうか。 事業を行って行かねばなら け余祐を生みだして、新規 とになると思う。出来るだ は、町の発展を阻害するこ て徒らに萎縮していること 財政再建下だからといっ

に基いてなさるべきである

ようにすべきである。

保健衛生に於ては、予防

失に対する補償問題も大い らば、既設の下山発電所が が実際に行われるとしたな に当らねばならない。

廃止になる。これに伴う損

に研究せねばならない。

本町の事業は五ヵ年計画

Ŀ

## 設業 委員長

めた

に序列を定めて計画的に進われている。今後は重点的われている。今後は重点的われている。今後は重点的のである。今後は重点的のである。

小

建産

び黒部川冷水害対策期成同い。さきに関西電力と県及 従ってその解決は、町議会 大きな当面の問題である。 目の完全実施を期するは当 盟会との間に結ばれた四項 大問題としなければならな - 当委員会としても最重 杉 原文次郎 町民の最も すいので、これは絶対に排 負をすることについてはと町職会議員が町事業の請 かく疑惑の目を向けられ易



杉 原

合せて三十五 三間半に四間 万円を要し の、望楼台と のりっぱなも

及び望楼台が 年十一月半ば 新設され、 に完成した。 消防車の車庫 この車庫は 小摺戸地区 Alle

の所在はわからないと響い

たが、その後多くの資料を

発見したので、

史談、石川県史などは之をが、加賀志徴や、大聖寺藩 にないか」と書いて いる

丹後の成合などのように、

池とは場所がちがう。察す

名文を以って描かれ、謡曲壇一雄の「木曾義仲」にも、

水の出合う池という意味で るにこれは地名ではなくて

謡われた有名な古戦場地帯

「勧進帳」「実盛」等にも

原氏を追うて、

てしなく続いている。 で、砂丘と松林と畑とがは

く書いた。その時、成合池 く書いた。その時、成合池

摺 F 消 防 施設 の改善

首を取った事、入善が首を

の教え易くかつ児童の学び 分な教室というのでは気の 腐朽した校舎で採光も不充 舎で明るく学び、他方では らない。一方では近代的校 やすい設備としなければな て貢献すべき部である。 境で充分智能を伸ばし得る とそれぞれ関連をもってお 毒だ。出来得る限り良い環 学校教育にあっては教師 厚生部門の範囲は極めて 人生並びに社会に対し 教育保健、衛生民生 を受ける方と、 が、法の定める授護の適用 進むべきはもちろんである 民生委員の方々と提携して と指導に当りた 社会福祉事業については

し奉仕する念願である。 れ、明るい生活のため尽力 重を期すべきだと思う。 その他すべての事業につ の方々との盲点に慎 いまー歩ス 小 堀 氏



日

入藝小太郎と成合池

(1)

務室 385 숲

室 長 ET

竹內慎一郎

保欠郎がかけつけて高橋のでいたの地の北濱 でいたが判官に組製かれ、すでにあやうい所を叔父の南でにあやうい所を叔父の南でにあやうい所を叔父の南でにあやうい所を叔父の南の北京 って加賀の安宅の渡りで戦 入善小太郎が木曽義仲に従 先に入善小太郎物語を連 特に本稿第十三回に 松、成合まで

載し、

ま Lt

#### 十二月から役場の窓口が か わ 少 ij 多

~面 E 役 場 收 厚 保 122 税 保 務課 健 入 健 務 4 衞 衞 役 生 戸 生 室 籍 課 課 課 課 総 税 財 38 務 猕 設 政 助役 収入役

助役 ▲産業課は総合事務所 に移りました

話 設 3 0 1 础 課 302 保健衛生課 3 0 5 務 課 終 303 教育委員会 3 0 4 産業

④〔發経記〕九郎判官義経 の砂原まで後退、こゝで斎 そこで平家は全軍総退却し 潮津

②〔同右〕大月一日平家は世まった。 やぶり、佐見、白江、成合 加賀の国へ乱入し、北越の 平家は十万の大軍を以って 篠原を押し 藤実盛が討たれた。 片山津潟をまわって、 郎左工門有国が討死した。 の際発表する)次に武蔵コ

光盛に討たれたなりあいの。 洗池」より相当東の方に当 合せると、現在の「実盛首 え、根あがり松についた。 池を見て、安宅の渡りを越 以上の史料を地図に照し

# 入 いての再検討や、職員の停

一、偉大なる発見 金

広島県

田 宥

は、全く当らない。 して時々感想を書き送るが ヒントを得られたというの ない。しかし、私の助言に て確信を得られたかも知れ というだけの違いである。

私は、入善町風土記に対

但し、現在の私はすこぶ

少し

その中には、多少の参考に

りである。

かような偉大な発見は、

四、発表機關

いことは、皆様御存じの通 の嵐がいつ吹くかも知れな る頑建である。ただ、夜半 葬式準備の一つである。 かも知れない。この一女も

はいられない。

5

9

スレ

であり、

記事の方が詳細だ

竹内氏は私の返事によっ

る。

を草することにしたのであ という気がして、この一文

が、原平盛衰記に云う成合は吉崎辺に今この名がある

先ず、三州志は「成合池

瀉か又はその周辺の池沼で

すると、

(源平盛衰記) 五月二日

成合に関する諸説を整理

クリカラの戦に敗れて後、

次々と敗退し、加賀の安宅

否定して、

成合の池は柴山

である。いつお迎えがある

起ったかについての竹内慎 風土記」における「入善町年三月号所載「入善町 一郎氏の判断は実にすばら い。私は読んで思わずう ら)には、その次に 二、筋ち が L

ャツだ」と思われたことでは「野田宥勝はスパラシイ と記されたので、読者諸君 深甚の敬意を表したい。 の助言にヒントを得たこ 健氏の友人・郷土史家ー とによる由、同氏に対し

「入善」という地名のお 先月号「入善町風土記」

に記されたので、 あると思う。 された。偉大なる発見で こりに関する新説を発表 において竹内慎一郎氏が

ある。とは、

要点において同じで

島の野田宥勝氏―米沢元 ところがその「編集室か この発見の動機は、広

に感じられたであろう。 うだ。恐らく全読者が同様 同様に感じられたもののよ 筋違いである。 いが、編集者の言は、 おぼしめし感謝にたえな

月号に出たのである。 早速その旨を申し送った。 全面的に賛成だったので、た。私はそれを読んで見てなべ、私に批判を乞われ

源に関する御自分の考えを 手紙で、入善庄の庄名の起 竹内氏が私に批判を乞わ 竹内氏は一月十六日付の

われた「入善庄名の起源」れた手紙と、三月号にあら 生きている間にぬいでおか ち〕を読んだ時「こりャア ち」を読んだ時「こりャア なることもあるらしい。 三、夜半の

入りしていたのであるが、 もらえないであろうと思わ 近頃に至り「ヌレギヌは、 れるので、そのまま泣き寝 っても、恐らく聞き届けて た。しかし、取り消しを願 筋違いだ。偽史だ」と思っ で人々の説を聞き、正確な鋭い目で資料を見、鋭い耳

ら永久にぬぐすべがない」なければいけない。死んだ である。 にして初めてでき得たこと 郷土史を研究された竹内氏 判断力で判断しつつ、多年 に偉大な発見をされても、

それを知り得るのは、竹内発表機関がなかったならば しかし、竹内氏がかよう

竹内氏が毎月発表される

五、精力の絶倫

表せずにはいられない。 研究者である。しかし、毎

も入善町報に対し、敬意をのである。この点において せしめていることにもなる 報は、竹内氏の研究を促進 研究は今ほどには進まなか がなかったならば、恐らく 月入善町風士記を書く責任 ったであろう。故に入善町

で郷土史を研究してはいる いる。 麻を断ち、 が、速力は竹内氏に遠く及 ばない。竹内氏は、快刀乱 六、過現未を貫く 天馬空を行って

おが、四十八ヶ顔を四十八 竹内氏の発見も偉大であ 安息所とすることを、四十 類の難所を開墾して旅人の 軽戒になぞらえ、四十八ヶ

ために、入善町三万の人々に発表の機会を与えられた たであろう。 こととなった。竹内氏に敬 に知られ、遠く百六十里を へだてる私までが知り得る 然るに入善町報が竹内氏 |泉の対岸で、そこは吉川英|① 所は、研究の結晶である。

報に対して敬意を表せずに 意を表すると同時に入善町 たいていなものではない。ら、それまでの努力は、並 め、考証を重ねてようやく現代史家の説などを悉く集 得られるのであるから、 力の絶倫、 しかも毎月相当量の結晶を 結論を得られるのであるか 先人の研究発表、 ただ驚くの外は 並

脳の明哲さにも舌を巻かず

しきを得た東大寺の僧の頭 に「入善庄」と命名し、

 武会を厳修し、随縁説法宜 入るものとし、その開墾地

授

私も竹内氏と同じ行き方 精 笑していることであろう。 たことを喜び、蓮台上に微 を見て、千載の後知己を得 にはいられない。 〔入善庄名の起源〕の発表 当時の東大寺の僧は、

過去、現在、未来を貫く大 ゆるがないであろう。実に 所であるが、将来も永遠に 人が曽て発見し得なかった 業績である。 竹内氏がかような大発見 竹内氏のこの発見は、先

> 日末、串、 里ばかり退き、

の死にミャゲである。エンい。私にとっては、何よりったことは、感謝にたえな 前に私に相談をかけて下さ マ大王の前へ大手を振って を発表されるに当り、発表 記述しているが、 下討死の模様を細詳に に呼びかけられた。以 ちゆく所を入善小太郎 ただ一人南を指して落 が敗れて四散し、 百余騎で大いに戦った が討死、高橋判官が五 高橋

入る。こゝで俣野五郎 家安宅の浜で敗れて 松崎まで引 佐美、 平 5

ち、斉藤実盛が 手 塚 太郎 著小太郎が高橋 判 官 を 討家返し合せて暫し戦い、入 で攻め付けた。成合にて平 追い、長並、一 城で暫し支え、 に討たれた。平家は大 源氏勝に乗って続いて 松、成合ま

五〇〇メートルの地点まで 再び水路で小川温泉下方

路で黒部市東布施の布施川

にある水測所付近に導き、 らに別の水路で黒薙川上流 発電する。この落し水をさ

水し、新愛本発電所を建設

黑部川付派经常所建設針重見取図

朝

光

九一

agallete

e htto

入善町

海

たばこの稅は町の貴重な財源です

たばこは是非この町で買いましよう

青木地区の増産熱

地

実

K

大

わ 5

わ

句

藻

くりつく顔 おぼゆ手術室に

素人には一ばん良いと貰いうけし山東菜の種

田 =

原

子

.E

令 益

信

ぎぬ盛り詰め

子

松 田 田

原

利

子 勇

下駄ならしかえる生徒ら外蹬を消すことわれ

たんねんに蒔く られし籾のぬくもり 脱穀の音に追われつ暮れ ゆき E 本 して二七、〇〇〇KWを発

Mの水路で音沢対岸まで導

この落し水をさらに大K

新設ダムで同川をせき止め

水し、

し、小川発電所を建設し 一・五KM ( トーロメ゙)を導

wを発電する。この案の を建設して六六、〇〇〇K

上流に導水、三日市発電所

1

筆

隨

.

ので、

いな犬相がよくない

流行しない。両方

、どちらもあまり人

して、禅宗では東司すな

る。犬が人糞まで喰い、 わち便所にお祀りしてい を「うつさま明王」と申 これを神格化した仏さま

経文は説いているが、 一切を清浄ならしめると

お

地の広さを知らないものが家では実測による確かな耕

する由。

実測費用は全部農協が負担

せっかくの

設計を立てたものの、各農 して土壤調査を行い、

肥料 測

本町は、

とが国から保護されてい して「柴犬」と「越の犬」

るが、年々減る一方だそで約三十頭登録されてい

黒四発電所の落し水を黒 【分流案】

屋平附近から分水して九Kに合流し、二KM下流の小

幸及

導水する「分流案」だそう 線に小川へ抜け、朝日町に

一一八、〇〇

000Kwとなる 一たん黒部川本流 出力が増して

新黒三発電までは分流案 【並行案】

落し水を

ある。

あり、一つは左岸に沿って後、下流で再び発電所を作

になる。

000k w

並行案

既設產金所 新設完電所 新設導水路 9° △ 9 0

とするもの。この案の合計

第四発電所の工事が終った

その報道によると、黒部

黒部市に導水する「並行

他は欅平対岸から直

田丁

の黒三発電所上流まで導水 部本流と別の導水路で現在

在 M導水し、柳河原発電所対 水 岸に新黒二発電所を建設し

九五、〇〇〇Kw(ワット) し新黒三発電所を建設して

電する。

小川温泉

700 (GM) 前海 (GM) 1160 (G) 2700 NW (G) 2700 NW (H) 三日市 6600 KW

收を毎年 水害に伴 を与え、 として水 益を前提 受ける利 税金等を

犬のはなし

犬は殖えるものらしい。 た。世が泰平になると、 戸の町々での象徴だそう

ろう。

越中の犬は小型だ

遊から始まって、遊に

る。

が上らない実情であ 肥料設計も充分な効果 多いので、

を保存するのも一法であ 県の種畜場あたりで純系

犬も家畜の一種だから

化の爛熟した甕やかな江 代大腳所懷当時大江戸文

これは、文化、文政年

くない。

越中でも天然記念物と

公のよい方面を代表し、

色が悪い。

しかし、

瑞祥と思えばまんざら悪 くなった。これも昭和の

ず。

仏法の方では旗

旗を払って初日をおろが 時だ」と伝えている。

むもまた快ならずや。

網成し、実測して無 て一班三名つづ四班を 部が受け持つこととし

全部の田んぼを測量し

犬の糞― 稲荷 伊勢屋に 長島勝正

目立って犬のすがたが多

どうかわからない。 ないから、うまく行くか が、種畜場のお役人必ず から大した畜舎もいらぬ

煩悩の犬追えとも去ら

しも犬好きときまってい

世の英雄大閤秀吉ですら 終る。はなはだきたない 的であったらしい。 でも一印度の便所は開放 釈迦様の時代からー現在

ことは、貯銭を出した 「人生で最も気持ちのよ

合せた。

この実測は農協青年

実測をすることを申し

農業協同組合が組合員

そこで青木地区では

はなしになったが、不出

最近都会、農村を問わず

# と黑四

|交渉

住民が黒部川の水で生きて良の案であろう。しかしこ

## 冷水害対策 委 員 会 生

## 水をまとめて笹川トンネルを新築し、落し水と小川の する。 点附近に高さ四○Mのダム 小川支流相ノ又川の合流 ○Kwとなる。

部日本新聞紙の報道によっ

般に知られるようにな

が去る十一月二十八日の中

「黒部川発電の総合計画」

関西電力が企ててい

る

泊発電所を建設して一一八 口まで八・七KMを導水し ○○○Kwを発電しよう するという点においては最 実は、単に電力を多く生産 電をするという関西電力の 電をするという関西電力の

### ま 3 を得ない。 れている暴案といわざる いるという重大な事実を忘 さて、

入善町三万の住民

00

ついてはむろん入善町とし 考えられることは、下山の一な資源である。将来もこの よってどんな事態になるかにとって、この流域変更に ある。この発電所の経営に 発電所が廃止されることで を検討してみよう。第一に ては発言

ないが、 対して、 この発電 黒四問題及び流域変更問題 を検討し 十二月五日農民大会を開き

交渉を進める を示してもろう)につき 関電に対し、四項目の早 冷水問題に対しては、

その上冷 | でお知らせしてあるが 2.愛本発電所の放水と本流 等の決議をしたのである。 2. 流域変更絶対反対 1.表層水取水設備をする 報二十九号(昨年八月号) 「四項目」については、 HJ

とを分離する施設をする 一ることになった。 は祖先から受け継いた貴重に、黒部川の水はわれわれ の美名のもとに一方的に流 域変更をなすことは、たと 来たのである。それを国策 すとしても絶対に許すこと を過去三十年間も黙認して 時価推定一億円内外の損失 い税の補償を今後永久にな

水を如何様にも有益に利用 し得る資源なのである。 このような意味で、去る

期完全実施(具体的な案|渉を進めることになった。 き この委員は、各地区の区ま はは生産組合から各一名選 出し、その委員の中から各 農協連絡協議会長、農業委 てる。その外に町長、競長 委員会」を設置して関電交 しなければならないとし、

いようにする。

流水客土を実施する

「入善町黒部川冷水害対策

有線放送設

備

成 る

設け、

農耕しながら放送が

に可能な場合実施)

に限定せず、全町の問題と は、この問題は、農民のみ 農民大会その後の空気で

(技術的

二名の常任委員が実務に当 び町議が加わり、都合五十 員会長、農業共済組合長及

に立法化されないときは 償として国が本年末まで

田 時期までに完成するという 中 時期までに完成するという の施設は、黒四発電完成の は

3.猫又発電所の放水路と柳

新小 摺屋戶

4.既設発電による冷水害補

小摺戸地区、

連絡して本流に混入しな 河原発電所の取水口とを

人の

定められているのである。

って選ぶこととなった。こ の代表者選挙については、 の代表者を国民の意志によ が行われる体制となり、こ

成

民こぞって成人となった若日」である。この日は、国一月十五日は「成人の 励する意味で、国の祝日と 人たちの前途を祝福し、

うか。 国民の代表者によって国政 民にある」ことを宣言し、 わが国が戦後「主権が国

のよりよき運営と発展に、 加わり、自分たちの県や町 は、結局地方自治の一員に

一体成人の意義やよろこ らない。 激 ことが成人となった人の第 権を特つ人となったというのである。即ち、法的に主 等しく選挙権を行使できる満二十才以上の成年男女が ら、成年になった若人たち なる県や町(地方公共団体 処分その他の特別な取扱いまた、民主政治の基本と る間は、罪を犯しても保護 一のよろこびであらればな の自治行政にあたる長や

となってくる。

少年法の適用を受けてい

年男女によって行われるか の犯罪統計によると、二十 議員の選挙も、住民たる成 それが無くなる。殊に毎年 を受けるが、成人になると ても、成人に達したことは 犯罪率が高いことから考え の輝かしい出発を祝すると 才から二十五才までが最も 更に危険な区域に前進した

日」を迎えて 峯 50 になるのもよろこびであろ 直接間接にタッチすること

節

能力者とし権利義務の主体 なるし、民事上では完全な の責任を負わされることに 少年法の適用がなくなり、 に達した日から刑事法では 人前の人間として刑事上 法律の上においても成年 希望に満ちた洋々たるもの 易に考えてはならない。 航海が続けられるものと安 ではあるが、決して快適な 大人の処女航海に乗りた した「成人丸」の前途は、

現実の確かな足場を築かね行を件い、理想の実現には権利の主張には義務の遂 ないことである。 惑されて、幻滅の結果を招か埋想とかの輝かしさに眩 ばならない。徒らに権利と かないよう梶をおるすにし

て止まない。 ともに、前途の多幸を祈っ って、試練に終る。 人生航路は、 試練に始ま 新成人

選者 吟 ちゅうすみどり おおたての一連映ゆる品植むきたての一連映ゆる品植 計画し 晚 紅

## UW Peace Cycellet. を開始するようになった。 とを開始するようになった。 は、有線放送設備の工事間は、有線放送設備の工事間は、有線放送設備の工事間は、有線放送設備の工事間は、有線放送設備の工事間は、有線放送設備の工事間 新屋地区で

のない点である。

を使っていることが他に例 と、電柱は全部鉄筋コンク

行く秋の

びて枯るる松くを吊 して 冬

b

リート柱(価格小約七百円) 聞かれるようにしたこと

一竿の柿を吊して冬籠酒の粕が匂うて熟し大場した場内のちらく、映り吊木

離根品こ

が、ここも野外放送塔六基 新屋地区は、新農村建設

入

善

短

歌

会

詠

草

外、野外放送塔を六ヶ所にれなく加入せしめ ている 心となって着工し、全戸も小摺戸地区は、農協が中 野外放送塔を六ヶ所に一を設ける計画である。

文

苑

さかれゆく肉とメスとがキシキシとふれゆく 百十に百六十の時もありて血圧変調か五十三

中

.忠

二○▼で進む針先みつめつつかほそい母のこ

## 県下各地に率先 てその耕作者に渡すという 計画である。 職 員 : 俳…壇…

# (写真は則量大兄)

短日や 忽ち 失せし 山の虹短日 や 忽ち 失せし 山の東海の辞の かんに咲きし投票所 な 居る 魚 売り 山 落 蝉 かな 田 は 大戸を回り かな 日 は かり は 日 や と の は 日 が な 日 は かり な 日 は かりな 日 は いりな 日 は いり 

### 禅 宗 崇 久高乙武 政 征 昌義吉男

栄 子 栄 宋 の仕事となりぬ

#### 新雪の深き野道を疾駆せむ行手に翳る過去は 孤独なる者の身がまえ常に持つ遂に書かざり 心悲しむ 生業に一念かけて日々を生きひそかにゆらぐ 残しゆく し愛を乞う女 華麗なる雉子の一つれ枯葉踏み人去る如き音 秋 ځ 背 春 99 0) 本 挽 歌 羧 宣

ことになる。

あれやこれやを考えるよ

農 越 北 北 中 新 (中 年 年 年 年 号 生 号 生 号 )

枝梗枯する

稍不

穂発芽多い

稍強

中

耐冷性強

ф

水稍 倒 伏 用 保 強

:

HJ

紋枯病に弱い 稍強

性小がネより適応 知程、穂重型

和十九年五月中部太平洋で争に兵長として参加し、昭

のである。

二ヵ年間これを続けて来た

ん方には幸い邦彦君(12)と ているのであるが、荒瀬さ

それ以来今日まで引続い

では、

本町の自動車普

こととて、俊夫君は、荒瀬

上原診療所にレントゲン

害

レントゲン設備 上原診療所に

いう俊夫君の同級生もいる

新

傷

稲拠病に弱

紋枯病に弱い

紋枯病に強い

中 中 中 中 中 良良

酒造米

短稈

稍長いが倒伏少い

Ψ. 111 シ

応 >

品

種

稍強

性が広い

適応性が広い

の印

公民館

一今日

夫

日夜人工衛生級の大ニュー の私は、映画監督気どりで 八ミリ(八ミリ映画)狂

つめかけている。 団の各関係者はもちろん

ないよ。

「そうだ、その意気。

のこと、多数の参観者が

ス勃発を待って いた矢先

昭和33年1月10日 発行

…柚木

ロダク 柚木プ

を挙げ 結婚景機

から撮影を関始した。花玄関の莫大な下駄の場面

かと思う。 は花嫁衣裳の振袖はどう ろうとする試みとして

力のパロメーターである

まず、町民のもり上る するのだ。」 てこそ生活改善が前進 全町挙げて関心を示し

新しい結婚形式をつく

嫁花婿が左右座りまちが

観集の爆笑を買っ

間と人間との結びつきだ改善の最大の目的は、人

結論的にいえば()結婚

全能力を結集し、相当

こそこに出発した。 当局はじめ婦人会・青年会場控室に入って一驚、

> に感銘を与えたようだ。 結婚式は、さすがに観衆 の費用を充てたこの模擬 たシーンもあった。 えて、

裳を簡素なものとし、 祝宴のバカ騒ぎや花嫁衣 であり、(2)結ぶ当事者が ということの普及が急務 ありがた迷惑にさえ思う

余

世刊の声もトー

ン

新 ۲ 船 8

#### めました。 この町に適する稲として、適応品種七、準適応品種一〇を決 稻 0 滴 應 品品 種 きま

3

几

H

ク

ラ

ブ

0

活

動

業の打合せをなすのほか、 c 四日連絡協議会を開いて事 中三日中央公民館で入善町 u 四日クラブでは、十二月

6.農産物実績展示会及び数開催

育写真展示会の開催

5.レクリエーション大会の

場の設置とその寄査会

いて話し合った。 四日クラブの振興方策につ

7.研究発表大会の開催

今年の稲作は次の品種を選んで増産しましよう。

中和晚	殿(中	<b><u></u> <b><u></u> <b> <u></u> <b> <u></u> <b> <u></u> <b> </b></b></b></b></b></b>	六年ヮ	Q林		品
生糯生	七生ガ	生早生生生	号り	生号	適	樋
かわけ	近銀東 i裁坊山	[E] - ##	目版林	HIEE	応	系
粉工工	九主三 号中八	早号一 生 号:	早三一 生号七 × 号	三生	品	
×号	× ×		×	号 ×	種	統
強			稍紋強 弱枯	弱		耐
ŧ		しなな	病に			鹓
ī	गु म	( · ( ·	強い			性
良 月	9 中	稍引		良		*
		不起良良				質
に収重	少安	朽此	長藤稍 岸坂長 、五稈	新屋、		そ
バ短晩りく植し	短く	瘠地	到号、 伏よ倒 すり伏	小摺戸		Ø
りいい	強く	に適す	る適少応い	に適応		他
骨内の旁	を に に に こ	人一研究プロゼクト	業経営・技術大会の開催		会員に対する四日	築者近こ

#### 花 を 供 文 る 少

女

独でさえ二〇人に一台だ じ運命にある敗戦国の西 対して一台だという。同

と聞かされては、

少々顆

小形 四輪 小形三輪

上八原

▼入善町自転車台数

三二・四・一現在

#

二四八

八〇五

現在総台数 八月までの増 足と行こう。

る忠霊塔に絶えず花が供え 六本松(青木)の傍にあ治 じ組松島利恵子さん (15) 娘さんである。 というとてもかあいらしい 利恵子さんは、太平洋戦 さん方の上青中学校三年

(松原利恵さん) この花の主は誰で らずの七人家族の中に育っ があとを継いでおり、水入 壮烈な戦死をなさった利一 は利一さんの弟の忠治さん

里

親

お ま わ

さ

2

けるようになり、このほど ちがこの花の主に注意を向あろう……? 附近の人た てある。 花の主は、青木農松島中 00 .

強調して無い。」等つきであることを特につきであることを特に キーに録音された。 「目新しいのが一つも るといった方式を取るべ 立でなかろうか。 婦に幾分の財産を贈与す しかし、 古い因題を一

瀬太一さん(35)方で、目出は、里親の吉原駐在巡査荒

とにした。

西

村

氏 0

頌

德

碑

建

0

夫君を引取って養育するこ らず、里親を買って出、

学校六年生宝泉俊夫君(12)

人きりになった上原小

一氏の佳 h

ない。 く評価しなければなら 平凡の中の非凡さを高案者の芸のこまかさ、 前進しようとするこの立 よりも、 うとして水泡に帰させる 度に破り、十歩前進しよ 後日映画が完成し、 歩一歩確実に れ、父親が土工出稼をした 和二十八年暮母親と死に別 を決対は宝泉与右ェ門さ びしく暮していたのであため、姉駕子さん(17)とわ たく新年を迎えた。

民舘で試写した結果、 と申し込まれたのには降 公開していただきたい」 「正式に公民舘で一般に 家族五人という小人数では、の毒に思った荒類さんは、 とて、親身になって世話し なった。近親もいないこと に及んで、全く一人きりと 女工に採用され、就職する

る。ところが昨年五月から 篤子さんが呉紡入善工場の



(写真は西村氏の領急では、 の領急では西村医療では、 の領域では、 の領域では、 のであるでするでは、 であるでするでするです。 であるでするでするです。 のであるでするでするです。 のの領域であるでするです。 のの領域であるでするである。 であるでするでするである。 事業に卒先協

が行われた。 歩を無償提供し、土地改良氏(6)の頌徳碑の除幕式 道の新設に伴う敷地約三反氏(6)の頌徳碑の除幕式 道の新設に伴う敷地約三反 (48)は去る十一月金一万円 入善警察署長能森豊二氏 日母堂ときさんが死去なさ 一部であって、供養のため して寄附された。

れた際に受けられた香典の この金は、昨年十一月一 社金庫へ寄附 能森署長の美挙 原子戦争 アメリカ資本主義見聞記 新薬千一夜 放射能の利用と障害 私はどう数えてきたか

だ。 の穴うめをした いもの より一層奮励して早くこ 教 ロンドンー東京五万キロ 恋愛と結婚 法律相談 師 中部日本新聞社 古谷綱武 川島武宣 宗像誠也

Œ

アサヒ家庭の百科浜名二正 原子力とエネルギ伏見康治 武谷三男 祖父江寛 安 山崎文男 評などを頂いています。この都度入善町報に対する批 ます。紙面の都合とはいえ 頂きまして深く感謝してい のたびはまた長女の原稿を これに対して野田氏からそ を毎号送っておられます。 島の野田宥勝氏へ入善町報 米沢町長は、 史学の友広

入 善 図 舘 义

名

著者名 夜の蝶

藤原銀次郎 永すぎた春 川口松太郎

硫黄島 パングローバーの旅 体の中を風が吹く佐多稲子 三島由紀夫

大阪

自分で考える 仕事のみち暮しのみち

林中村光夫

東郷豊治

んぼ 江崎越致 稲葉真吾 東光 大原富枝 山田克郎

井上友

銀座二十四帖 編 集 後 期

**- 136 -**

大巾のカットをした非礼を

#### あ 7 町 τ Ø 自 ご 動 b 大 人口二七、四一一人に割り と 各種自動車の総数は一九一 と 今種自動車の総数は一九一 及 ? の状汚ゖ ? 『 車 h 数 を

軽自動車

機 們 新 小 飯 青 山 山 屋 戸 野 木

| 与蔵氏) は昨年十一月第六 施するとか、有畜農業へ のを反当三石以上收穫する当一石六~七斗であったも 純農村部落であるが、 ようになった。 営の改善をなして、従来反 の転換をはかるなど農業経 客土を全町にさきがけて実 に 最村部落であるが、流水 同部落は、戸数五五戸の なったというから、現在 は大したものだ。五、六 自動車の数の殖えたこと ではもっと殖えたことだ 年前すでに戦前の二倍に 程度の貧乏国のくせに、 最低生活に毛の生えた

当てると一四四人に一台と

H

八月までの増二五〇. 計 五、八八九 間 山 五七八

現在総数六、一三九 自転車台数 ▼入善町原動機付

いうことになる。

ピードアップは自転車でップ時代だ。わが町のス

世はあげてスピードア

なされているというわ

特極的に働きかけ、台所生活改善の面では婦人会 に、日本は、二一〇人にし、自動車一台であるの に対する国民の数はアメ の統計では、自動車一台 リカでは、国民三人に対 ろう。それにしても最近

10優良クラブ員の表彰等 9.種苗・図書その他の必需 8.科学技術の講習会の開催

品の斡旋

表彰されたのである。 のがある。 などの改善が注目すべきも が積極的に働きかけ、 以上の事項が認められて

貨 物自動車

車の数でも掲げて自己満け、四月一日現在の自転

機們新小飯青上入 摺 山山屋戸野木原善

農村文化賞を受く

小摺戸第二区(区長小林

4 塔は改築されてりっぱにな 「昭和三十一年春当の忠靈 学校の成績も非常に良い。 ったとはいえ、花の絶える んは、 ことを遺憾に思った利恵さ て来た。そのため遺児とは 花供養を思いたち、

さんの一粒種である。現在一するものができるなど、 うた子に数えられた形で、 するものができるなど、負になり、新しい花簡を提供 深めるようになった。 忠霊塔に対する敬虔の情を この花の主のことが評判

んの行為に対して

「よくやったものだ。五 には頭がさがる。 日や十日ならいざ知ら ず、なかなかマネので きないことだ。荒瀬君 激賞しておられた。

の際、荒瀬さんの表彰を行った。 では、去る十一月五日に行 また、町社会福祉協議会

俊

元気に楽しく暮している。 家の家族の一員となりきり 能森入善署長は、荒瀬さ 揮出来ることになった。早々から診療に新偉力を発 顔をほころばせつつ 新式のものである。 市三栄製作所で作られた最 を備えることになり、 このレントゲンは、 広野同所長はよろこびに

分の一をあてこんで購入 で賄うので、国庫補助三 で賄うので、国庫補助三 で助きので、国庫補助三 では独立採算制の会計 してもらったのであるが 「懸案のレントゲンが設 第三の眼 良 全国新温泉案内 寬

地方自治読本 日本憲法の分析 田付たつ子 中井平彦 鈴木栄一 井上俊夫

町大工 肺外科 風と青春 生ける日の歓び芹沢光治良 絹の海流

おはん 人斬り彩斎 ストマイつ

日本旅行協会

宇野千代 到